

まつばら阪南大学マルチスポーツチャレンジ ～持続可能な循環型スポーツクラブの実践～

実施概要と目的

① 持続可能な循環型スポーツクラブの運営 【地域課題①②③④】

まつばら阪南大学スポーツクラブで様々な活動を実践した。その具体例を②以降に示す。

② まつばら阪南のびのびあそびフェスティバル 【地域課題①②】

主に3歳から9歳くらいの子どもの対象に自由あそびなどで楽しむ機会を提供した。

③ まつばら阪南いきいきマルシェ 【地域課題①②③】

子どもから高齢者まで、みんなが“いきいき”と運動やスポーツ、食を楽しむ場を提供した。

④ 小中学生を対象としたコーチング実践 【地域課題①④】

ダンス部とバスケットボール部のコーチや部員が市内の小中学生の指導にあたった。

⑤ みんなで楽しくリズム体操～大学生と多世代交流～ 【地域課題③④】

市内の高齢者を対象に、大学のスポーツ施設を利用し学生たちによる運動イベントを実施した。

地域が抱える課題

- 働きざかり世代、子育て世代で運動習慣が不足^{*1}
- 子どもの頃からの運動習慣を継続できる環境づくり^{*1}
- 高齢者の身体機能・生活機能の低下の予防に向けた支援^{*1}
- 人口減少によるスポーツ指導者やサポート人材不足^{*1}

*1：第2次健康まつばら21(健康増進計画・食育推進計画)

活用した大学スポーツ資源

本事業は、本学の以下のスポーツ資源を活用して実施する。

■ 本学教職員(スポーツ関連専門家)

イベントの企画・立案、イベント実施、スポーツクラブ運営、コーチング(ダンス・バスケットボール・サッカー)の各エキスパートが各所と協働して事業を実施した。

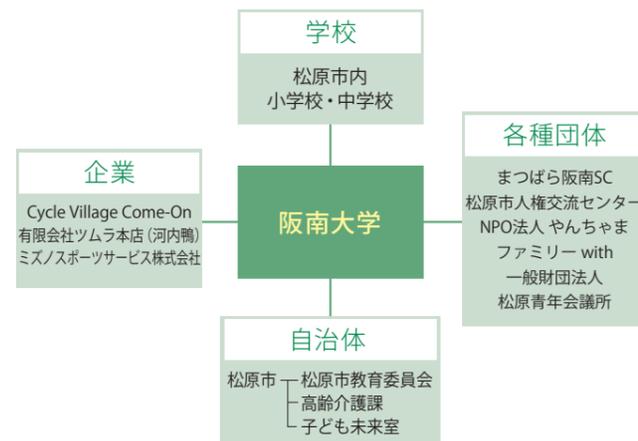
■ 強化クラブを含む課外活動団体の所属する学生

強化クラブ(バスケットボール・トランポリン・サッカー)に加えて、ダンス部やスポーツマネジメント部、そして有志の学生が本事業に賛同して活躍した。

■ 阪南大学本キャンパス、高見の里グラウンド

人工芝グラウンドと総合型体育館を備えた本キャンパス、サッカー専用的高見の里人工芝グラウンドで事業を実施した。

実施体制図



VOICE 連携団体より

子どもたちが楽しみながら体力を向上でき、安心できる「学校以外での居場所」の一つとして今後も機能が続けてほしいと願っています。

松原市教育委員会 学校教育部
次長 矢野 智史



町の子ども達に向けた青少年事業を手伝って頂きました。学生のおかげで、たくさんの子どもが礼儀作法をはじめとした内面的成長を得ることができたと思います。

一般社団法人 松原青年会議所
副理事長 深山 大地

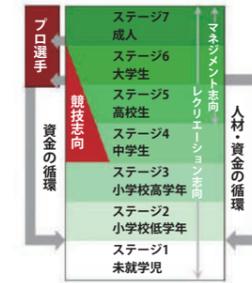


実施した具体的な事業

■ 事業1 【地域課題①②③④】

持続可能な循環型スポーツクラブの運営

「過去への感謝、未来への責任」のクラブフィロソフィーのもとで持続可能な循環型スポーツクラブを目指している一般社団法人まつばら阪南大学スポーツクラブを中心に、行政や民間企業などと連携して様々な活動を実践した。その具体例を②以降にまとめた。



■ 事業3 【地域課題①②③】

まつばら阪南いきいきマルシェ

「子どもから高齢者まで、みんなが“いきいき”と運動やスポーツ、食を楽しむ場を提供する」を目的として、計5回実施した。屋外イベントのため天気によって来場者数にばらつきがあったが、平均すると200名程度が参加した。会場には、誰もが気軽に遊べるスペースを作ったり、松原市内で採れた美味しい野菜や、銘菓を販売するブースを設置した。特に、小さい子どもを連れて保護者からの評判が良く「近所でこういったイベントを開催してくれると大変ありがたい」といった声を頂いた。



■ 事業2 【地域課題①②】

まつばら阪南のびのびあそびフェスティバル

本事業のメインイベントである「まつばら阪南のびのびあそびフェスティバル」では、主に3歳から9歳くらいの子どもの対象として、自由遊びや、ダンス、トランポリンなどを楽しめる機会を提供した。参加してくれた子どもは大変楽しそうに遊んでいた。中には、開場から終了まで5時間以上滞在してくれた方もいるくらい、参加者にとって居心地の良いイベントとなった。



■ 事業4 【地域課題①④】

小中学生を対象としたコーチング実践

松原市内小学校からの依頼を受け、本学のダンス部員が小学校でダンス指導を行った。最終日は小学校の先生方に完成したダンスを披露し、沢山の拍手を頂いた。バスケットボール教室は、本学のコーチと部員が初心者と経験者を対象にバスケットボール教室を開催した。

■ 事業5 【地域課題③④】

みんなで楽しくリズム体操～大学生と多世代交流～

松原市の高齢者を対象に阪南大学のスポーツ施設を利用し、学生たちによる運動イベントを実施した。これまで準備してきた運動プログラムの成果を発揮することができ、高齢者と学生の交流も大盛り上がりだった。座ったままのストレッチや脳トレを行い、最後にイベントの目玉でもあるマツケンサンバ(阪南大学Ver.)を踊った。帰り際に参加者から次回も参加したいというお声を沢山頂くことができた。

結果・成果

本事業は、地域の喫緊の課題である各年齢層における「運動習慣」に特に着目して推進した。参加者からは満足度の高いコメントを頂き、現地では多くの笑顔を生み出すことができた。これまで本学教員によるゼミや部活動で不定期に開催していた各スポーツイベントを、本事業をきっかけに集約し、広報活動を行い定期的に開催することで、対象とした松原市民に「大学スポーツ資源を活用した」スポーツ事業があることの認知度を高めることができた。明確な成果としての運動習慣改善は、今後、本学の各部署横断で取り組んでいかなければいけない課題である。本事業の「持続可能な循環型のスポーツクラブの実践」については、強化クラブの部員が競技スポーツに関わるだけでなく、子どもを指

導する立場になってスポーツの力で地域を活性化できることを実感してくれた。またスポーツマネジメント部の活躍により、各イベントは学生を主体として実行されていった。彼女らが卒業して、今度は家族を連れて参加者として大学に帰ってこられる場を次世代の学生が創る。そんな「循環」の第一歩を今回の事業で作り出すことができた。



総括・今後の展望

本学教員のスポーツに関する専門性、強化クラブを中心とした施設とその部員、指導者、そして大学全体の理解を得て「地元松原市のために何が出来るか」という問いから本事業が始まった。本事業を通して、本学の更なる潜在能力にも気づくことができた。世界レベルの選手を輩出するスピードスケート部、新設の女子サッカー部、そしてeスポーツやAIデータサイエンスの活用など、いまだ眠っている本学の潜在的な資源を生かして、松原市の地域振興をさらに加速させていきたい。